

春の交通安全

4月は、新入学生や新社会人はもちろん、多くの人の生活環境に変化があることから、交通事故が多発する時期です。どうすれば事故を防止できるのでしょうか。

交通事故を分析してみた

誰が、いつ事故にあっているの？

図1の「【年齢別】歩行中の交通事故死傷者数」を見てみると、新1年生にあたる7歳

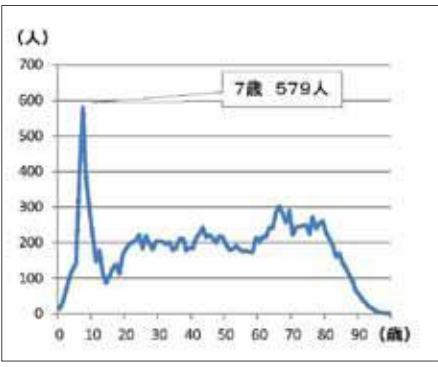


図1 【年齢別】歩行中の交通事故死傷者数 (福岡県：過去5年)

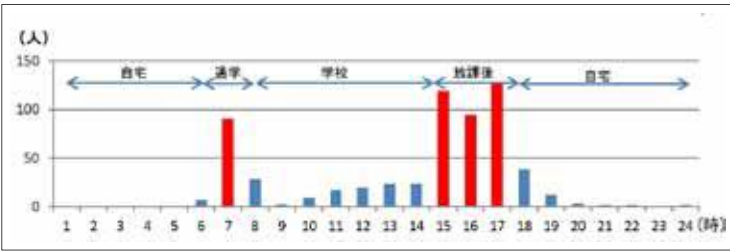


図2 【発生時間別】小学1年生の歩行中交通事故死傷者数 (福岡県：過去6年)

が最も多く、「魔の7歳」とも言われています。

また、図2の「発生時間別」小学1年生の歩行中交通事故死傷者数」では大人の目が届かない下校後の午後3～5時台や、登校時の午前7時台に事故が多発しています。

事故の特徴は？

- ・なぜ新1年生が事故に多くあうのでしょうか。新1年生は
- ・子ども一人で行動することが多くなる
- ・道路上の危険についての知識が乏しい

4月から自転車通学をはじめますが、自転車での事故も

自転車の事故にも要注意

止まる
横断する前に必ず立ち止まる

見る
左右の安全確認をする

待つ
車が止まってから横断する

その際には、分かりやすい言葉で、具体的に指示したり、通学路と一緒に歩いたりして、安全な方法を教えましょう。

事故にあわないためには？

以上のことを踏まえ、保護者は子どもに対し事故にあわない方法を指導しましょう。

などの特徴も現れていました。

- ・死傷者は女子より男子が多い
- ・飛び出し、道路横断中の事故が多い
- ・結果になつているものと考えられます。このほかにも、
- ・飛び出し、道路横断中の事故が多い

自転車安全利用五則

(出典：警察庁)

- ①自転車は、車道が原則、歩道は例外
- ②車道は左側を通行
- ③歩道は歩行者優先で、車道寄りを徐行
- ④安全ルールを守る
 - ・二人乗りの禁止
 - ・飲酒運転の禁止
 - ・並進の禁止
 - ・夜間はライトを点灯
 - ・信号を守る
 - ・交差点での一時停止と安全確認
 など
- ⑤子どもはヘルメットを着用

自転車安全利用五則を守りましょう

左の「自転車安全利用五則」を守って、事故にあわないように、事故を起こさないよう

4月～5月に多発する傾向があります。自転車乗用中の交通事故死傷者は、高校1年生にあたる16歳が突出して多く、事故の65%が登下校中に発生しています。

に、気を付けましょう。自転車関連事故では、自転車利用者が被害者になるだけでなく加害者になるケースも増えてきており、中には数千万円の賠償金を支払わなければならないケースも出てきています。また、各学校や市役所にも自転車の危険走行についてご意見が寄せられています。自転車は、運転免許も必要なく安易に利用できるものですが、車両としての危険性もありますので、ルールとマナーを守って安全に利用しなければなりません。